

認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど

2024年度活動・事業のまとめ**I. 2024年度を振り返って**

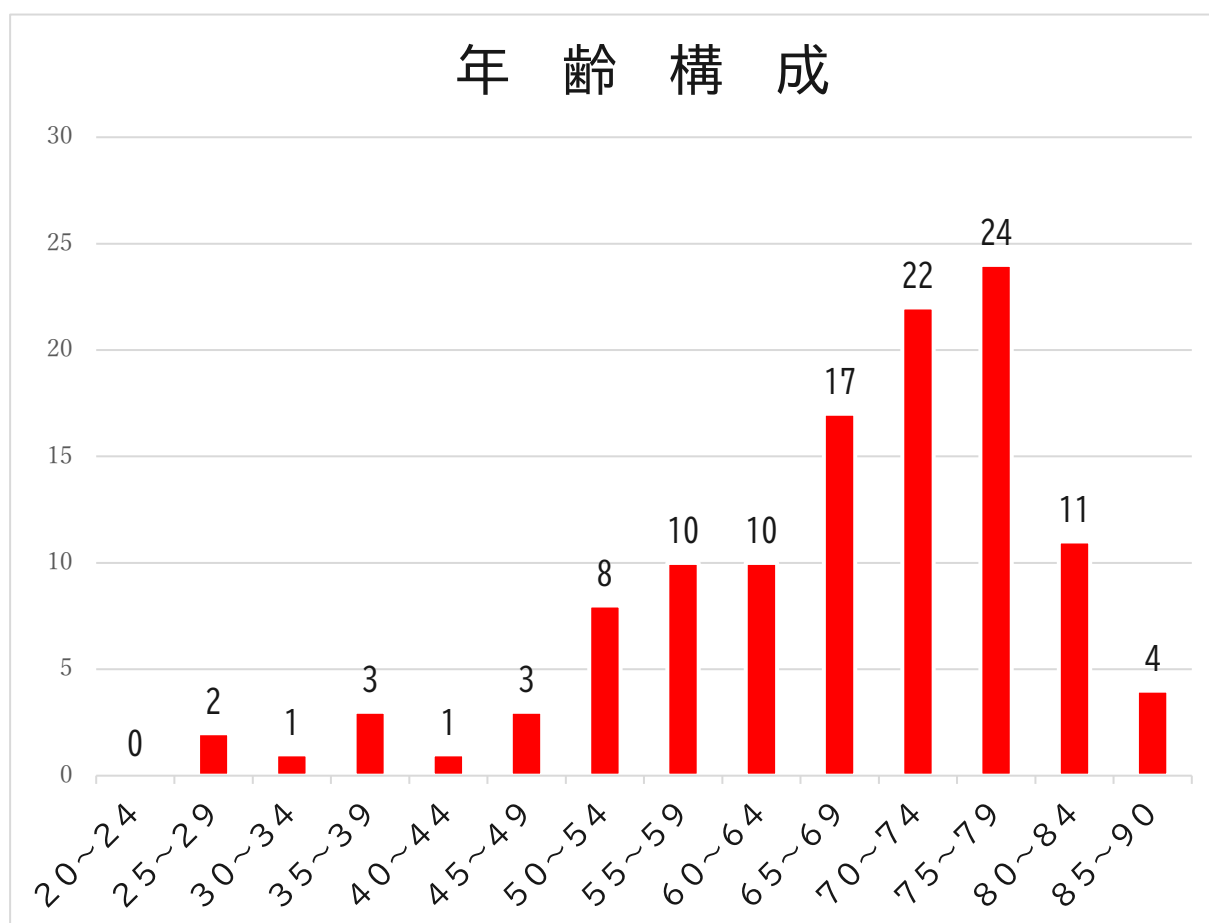
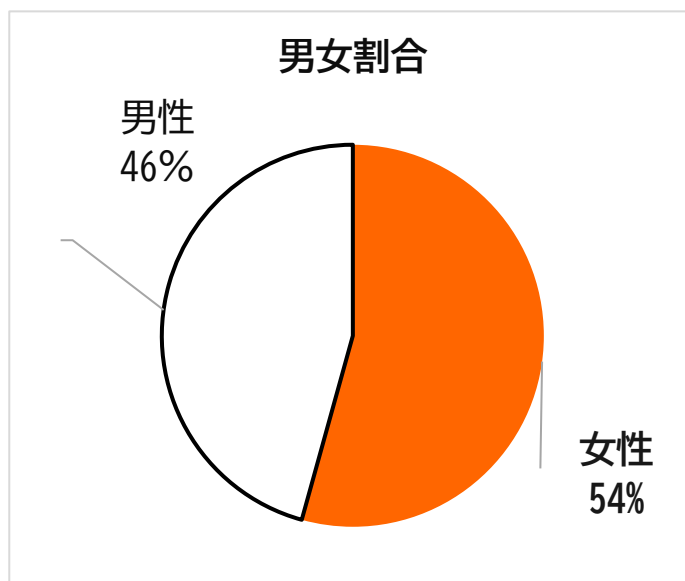
1. コロナ禍もほぼ収まり、日常が戻ってきました。ふれあいネットまつどは、活動・事業ともに概ね計画に沿った取り組みをすることができました。
2. 会員活動、社会活動では、役員とスタッフが協力し、年間計画に沿って行いました。会の現在の力量では精一杯の取り組みをすることができたと思います。
3. たすけあい活動は、ふれあいサービスは前年並みの取り組みでした。ふれあいの居場所みんなんちは、講座数を増やすなど2025年度からのリニューアルに向けた準備を行いました。
4. この3年間続いている赤字決算からの脱却の取り組みは遅れ、事業の改革は年度後半からの取り組みになりました。残念ながら、年度中には成果が出ていません。2025年度の最重要の課題になります。

II. 会員・会員活動

1. ボランティア説明会を毎月開催、3月からは月2回開催にしました（年間13回開催、22人参加）。
2. 会員拡大・会員の動向
 - (1) 利用会員は入会待機者の解消に手を付けるのが遅れ、16人の入会にとどまりました。期末人数で148人です。1月から取り組みを強め、入会待機者はほぼ解消しました。
 - (2) 協力会員は、14人の入会で前年並みにとどまりました。ボランティア説明会会場が常盤平市民センターを会場に固定化しているなどの問題もあり、会員おさそい活動の再構築が必要です。

	種 別	2023 年度 入会数	2024 年度 入会数	2023 年度 期末在籍数	2024 年度 期末在籍数
1	ふれあい会員	17	16	149	148
2	みんなんち会員	—	1	10	11
3	正会員	16	14	112	112
4	賛助会員	0	0	17	12
5	合計	33	31	278	283

(3) 協力会員では、入会5年未満の会員が1/3を占めています。会員の現状は以下の通りです。



3. 会員活動

(1) みんなんち広場の開催をはじめ、交流を目的のイベントなどを計画通りに取り組むことができました。取り組みへの協力会員の参加の広がりが課題です。

活動名	開催日	参加人数	特徴
みんなんち広場	6月23日(日)	V22人 来場者 約100人	コンサート&マルシェ(雨天)
防災センター体験ツアー	9月8日(日)	20人	移動研修兼ねる
ふれあい敬老会	9月22日(日)	長寿会員14人 一般会員22人	
秋のおでかけ	11月17日(日)	22人	葛西臨海公園
協力会員運転研修会	12月8日(日)	26人	運転演習
新年会	1月26日(日)	26人	
ふれあい誕生会	奇数月6回	34人	
みんなんち居酒屋	4/30、7/30、10/29	のべ24人	

(2) 会員研修会は、移動サービス従事者研修会を2回(のべ46人参加)、みんなんちスタッフ研修会を2回(のべ15人参加)開催しました。

Ⅲ. たすけあい活動

1. ふれあいサービス

- (1) 活動時間数、利用人数、協力人数とも、ほぼ前年並みの実績です。
- (2) コーディネーター1人体制は、要望に応じる活動に制約をもたらしていたため、年明けから2人体制にしました。
- (3) ふれあいサービスの依頼内容が固定的になっており、サービス内容の幅の広がりが課題です。

	種類	2023 年度実績	2024 年度実績	前年対比
利用人数	移動サービス	624	534	85.5%
	生活援助サービス	122	134	91.0%
	合 計	746	668	89.5%
協力人数	移動サービス	233	212	90.9%
	生活援助サービス	101	114	112.8%
	合 計	334	326	97.6%
時間数	移動サービス	2679	2501	93.3%
	生活援助サービス	320	426	133.1%
	合 計	2999	2927	97.5%

2. ふれあいの居場所みんなんち

- (1) 講座種目が年度末には、前年より2講座増え9講座になり、参加者も前年度より増えました。
- (2) 運営を担うボランティアスタッフも増え、研修会を2回開催しました。
- (3) 「高齢者の社会的孤立を防ぎ交流を広げる」ことを目的に「おとな食堂」を9月から毎週開催することができ、活動の幅を広げています。
- (4) 第5火曜日の「みんなんちデイ」を理事会主催の行事として、楽しくて生活の役に立つ企画の開催を予定でしたが、4月の1回のみの開催でした。2025年度は新しいコンセプトで実施することが必要です。
- (5) 地域からの参加者を広げる取り組みが行えませんでした。常盤平・小金原地域への宣伝活動が課題です。

講座名	実施回数	2023 年度人数	2024 年度人数	備考
健康麻雀くらぶ	12	51	108	
手芸教室	12	38	33	
楽ちん！スマホ教室	11	40	38	1回お休み
絵手紙教室	10	78	75	2回お休み
オカリナ音楽サークル	12	93	88	
映画鑑賞	6	28	35	
ピアノで歌おう	9	172	163	1月で終了
書道教室	1	—	2	
DANCE！DANCE！みんなんち	1	—	7	
みんなで歌おう	1	—	13	
合計	75	500	596	

IV. 制度サービス事業

1. 居宅介護支援サービス

- (1) ケアマネが期中に2人減り、10月から3人体制になりました。このため、利用人数は前年度を下回る結果でした。
- (2) 地域包括支援センターから依頼されたゴミ屋敷状態での介入拒否、同居者による金銭搾取等の複数の困難事例に対し、多職種連携による解決策を図りました。
- (3) 2人のケアマネが主任介護支援専門員研修を受講・資格取得し、部門内の専門性が大幅に向上しました。
- (4) 体調不良のある職員に対する支援体制を構築し、離職防止と就労継続を実現しました。

2. 訪問介護サービス

- (1) サービス提供時間は、月平均166時間。前年比110%の支援を実施しました。但し、新規利用者で、ヘルパーの都合、利用者との相性、体調の急変など、長続きしないケースが多々見られました。
- (2) 利用者のニーズ、認知症の進行などの対応について、月1回の研修を通じて改善策を図りました。
- (3) 支援方針についてヘルパー間の共有を図るようにしましたが、十分ではありませんでした。

3. 障害福祉サービス

- (1) 相談支援では、利用者一人一人に丁寧に寄り添い、つらい時や不安な時に連絡をもらおうと、丁寧に話を聴くように努めました。
- (2) 移動支援は相談支援利用者に限定しての提供となりました。

4. 通所介護サービス（デイサービスるんるん）

- (1) ケア内容の把握と介護技術の向上
 - ①毎日終礼を行いその日の課題と対策を検討し次のケアに生かせることができました。
 - ②利用者ごとの身体状態の共有と確認を徹底することで転倒等の事故や介護トラブルがなくサービス提供が行うことができました。
 - ③家族や介助者とのコミュニケーションを図り、自宅での様子を把握した上で生活動作を低下させないよう取り組み、現状維持できました。

- (2) サービス提供内容については、創作活動やプログラムに飽きが来ないようアイデアを出し合い新鮮さを意識しました。
- (3) 業務日誌や介護記録の見直しをしながら簡潔に要点をまとめるよう業務の効率化を図りました。
- (4) 経費削減として、送迎をスタッフで賄えるよう配車を整理しドライバーの削減、厨房の人数を削減、最低限の安全を確保し一日の職員の配置人数削減、消耗品に対する意識を持ち、無駄を削減しました。
- (5) 労働時間の短縮は、有給休暇を取得できるシフト作成と人員配置により取得回数増を図りました。

種 別	提供時間数			利用人数		
	2023 実績	2024 実績	前年対比	2023 実績	2024 実績	前年対比
居宅介護支援	—	—	—	2025	1510	74.5%
訪問介護	1820	1993.67	109.5%	286	331	115.7%
相談支援	—	—	—	137	131	95.6%
移動支援	47.5	147	309.4%	8	27	337.5%
合 計	1820	2140.67	117.6%	2456	1999	81.3%

通所介護	登録人数		利用回数	
	2023 年度実績	2024 年度実績	2023 年度実績	2024 年度実績
合計 () 内は 月平均	3 3 2 (27.6)	2 9 6 (24.6)	2 2 2 5 (185)	2 0 4 3 (170.2)
前年比	8 9.1%		9 1.8%	

V. 社会（貢献）活動

1. 地域交流イベントとして、みんなんち広場（マルシェ＆コンサート）を6月23日に開催。生憎の雨の中、ボランティア22人の協力で参加者は100人余ありました。
2. まつどDEつながるステーション in 常盤平には3回参加（6/8ボランティア8人、7/13・8人、2/22・9人）し、ふれあいネットまつどの認知度向上に取り組みました。
3. まつど市民活動サポートセンター主催のみらいフェスタ（旧市民活動見本市）には久しぶりに出展参加（3/22ボランティア8人）しました。
4. 福祉有償運送運転者講習会を5回開催し、49人を養成しました（うち会員は9人）。移動困難者の移動の自由を求める社会的要請に貢献しました。
5. 東日本大震災被災者支援活動も14年目になり、前年に引き続き宮城県東松島市の被災者が取り組む地域交流活動「東松島みんなんち」を事務局として活動しましたが、現地での交流は実現できませんでした。

VI. 広報・宣伝活動

1. LINEによる会員向け発信を9月より開始しました。郵送料削減などを目的に実施、現在60人弱の協力会員が参加しています。
2. 「会報えがお」「みんなんち日記」は毎月発行し、全会員と関係者に配布（郵送）しました。
3. SNSの発信では、X（旧Twitter）に約50回投稿、facebookは試験的に実施しました。
4. ホームページは基本フレームが2012年開設のままで、更新作業に時間を要してしまい、全面的なリニューアルが必要になっています。

VII. 会運営と財務

1. 理事会を毎月開催し、会運営の要の役割を果たしました。
2. 三役会と事務局を日常運営機関として、たすけあい活動と事業部門のマネジメントを行いました。
3. ここ3年間続いている赤字体質の転換を目指して、事業部門の強化に取り組みましたが、成果は充分にまだ出ていません。
4. 黒字転換の2本柱の1つである助成金獲得についても、前年を下回りました。